

会報

No. 38

平成8(’96)年1月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069

「人間尊重の対応が基本」 —泊研修で「いのちの電話」の平田さん

「住民の願いをききとる図書館サー

等を強調されました。

ビス」をテーマにした今年度の一泊実務研修は、十一月十六・十七日の両日、亀岡市で開催されました。

一日目の全体会では、会長の挨拶の後、研修研究委員長から「《先生》のお話を聞くだけではなくて、自分たちの失敗もさらけ出し、初心にかえって日常の業務内容・態度を見直そう」との提起がありました。

基調になる講演は、「いのちの電話」の二十五年から」と題して、
（京都いのちの電話）事務局長の平

田真貴子さんがしてくださいました。

その中で、平田さんは、人間が成長するためには、多少の痛みが伴うものであること

・平常心をもち対応することが大切
・また研修を続けることによって、現場での適切な実践が可能したこと等
を豊富な例により話してくださいり、カウンセラーも図書館員も、非言語的コミュニケーションを含む人間尊重の対応が基本になること
・幼時期に本を読んでもらっている
という温かさにふれることで自分の存在意義を自覚することで自分の

質疑応答の後、十五名ずつの二つの分散会では、自己紹介と自館の実情やいま抱いている疑問が出され、

利用者の声などをどう受けとめたらよいかや、住民の声を生かした館内サービスの例などについて、お互いの考え方や経験を話し合いました。

夕食時やその後の情報交換は、個性豊かな司会者のリードで進められ、かなりの人が真夜中まで語り合うなど、分散会とはまた違った面での成果がありました。

二日目の分散会では、予想された

協議題（例——相談専用のカウンター設置の問題点など）の他に、例えば、思春期の子の名前を呼ぶことは？

・延滞し延長を求める来館者には？
・騒ぐ子自身と保護者への対応は？
といったことも話題になりました。

まとめの全体会では、親子間のプライバシー尊重に関して、本を借りた子どもを独立した人格ととらえるべきことが論じられました。

・楽しく働ける条件整備と心遣いを
・利用者が相談しやすいカウンター
にするなどを、まずめざしたい
といったことが強調されました。

最後に、今回の内容を、館に帰つて伝え、館員全体で検討と実践することを確認し、終了しました。

なお、この研修会の概要は、印刷して研修研究委員会より各館に配布する予定です。



◎あつという間に
過ぎた二日間

舞鶴市立西図書館

河田 美奈子

今回の実務研修では、日常業務の中でも誰もが経験するカウンター業務を中心に、利用者との関わり方にについて学びました。

まず、講演では、相手の話を聴き取る姿勢として、相手が何を言いたいのか引きだし、導くためには、自分が言葉の引き出しの中に、どれだけたくさんボキャブラリーを持つているかが大切、というお話が心に残りました。

実際に、その場で、例を出され、それに関する言葉を皆であげてみましたが、いざ考えるとなかなか出ないもので、常日頃から感じてはいたのですが、自分のボキャブラリーの乏しさを痛感しました。

分散会では、日々利用者と接する中での、様々な悩みや疑問が出され、どのように対応するのがよいか、各館の例を出しあって話し合いました。分散会終了後の交流でも、このようないい意見交換は続き、あつという間に二日間が過ぎたような気がします。あまりこのような交流の機会がないので、普段はよくても電話でしかやりとりすることのない他館の方々

ですが、ぐっと身近に感じることができる研修会でした。



◎第45回
実務研修会に参加して

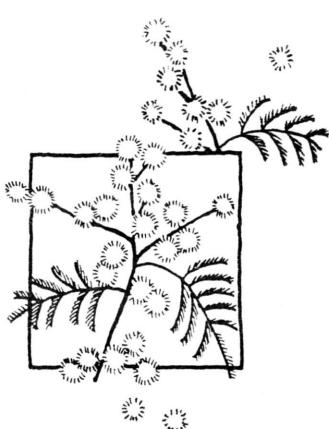
京都市左京図書館

藤澤由美

私が、出席した第一分散会では、

- ①延滞 ②児童に接する態度 ③レ
- ファレンス ④選書 等について熱

素・自身の向上は、同じである。研修を終えて、私は今、自分が乗っているはやくは進まない自転車に乗り続け、そしてこぎ続ける事が、これから私の課題であると確信した。



な事を再確認させられた。

中でも、レフアレンスにおいては、

図書館の原点を痛感

宇治市中央図書館

梅津 茂

十月五日から十月六日、滋賀県草

津市の長寿社会労働福祉センターに

全国から集まつた奉仕部門研究集会

参加者は年齢層も幅広く、また女性が多かった。新しい建物はやつぱりいいもので、いかにも研究集会という感じでした。

当日の講師である平田真貴子氏のお話の中で、①相手の気持ちの理解 ②自分自身の情緒の安定・豊富な感情とボキャブラリー ③あいづちのバラエティーとその重要さ ④言葉だけでなく声、そして⑤常に勉強し続ける とあつた。

職種は違つても、仕事における要素・自身の向上は、同じである。

前川先生の基調講演には、あらためて、図書館とは何か、司書としての基本姿勢について再認識しました。特に印象に残つたのは、井の中のかわづのように図書館だけの世界で物事を考えずもつと大きな視野をもたねばということでした。

全公図・近公図奉仕部門研究集会

事例発表では、日野市の充実した図書館網と豊能町の取組に図書館の原点を見るような感じになりました。

滋賀県立図書館の澤田館長の話から、市町村立図書館に対する県の役割と対応について京都府ではまだ基本的にところで遅れていることを認識するとともに、京都府でも早急に検討してもらいたいと痛切に思いました。

新加盟館紹介

大宮町公民館図書学習室

京都府図書館等連絡協議会に、平成七年度より加盟させていただきました。

平成三年十一月、以前、会議室だった公民館二階に、新たに「図書学習室」として再出発しました。同年十

月からは、京都府立図書館の広域貸出事業をうけて、移動図書館車「カリヨン」が町内十一ヵ所をステーションとして運行しています。現在、蔵書数約一万冊余り、利用登録者数は千九百八十二人になりました。年間貸出冊数も平成六年度には、約一万六千冊（移動図書館車を含む）になり、コンピュータによる貸出業務で、本の貸出返却処理がスピーディーになりましたことや、年末年始と国民の祝日を除いて、ほぼ一年中利用できるようになつたことなどで、利用者も着実に増えてきています。当図書室では、子どもの本を中心に町民の読書推進に努めてきましたが、最近では、絵本童話作家による講演や原画展、親子の集い等の参加も多く、大変好評を得ています。ここ一年、リクエストも一気に増えています。今後も「来てよかつた、また来たい」

と思つていただけの町の文化の広場になるよう、日々図書館サービスに努めています。

一ヶ月の利用度は次のようにすさまじいものがありました。

入館者数は十一月三日の六、三一八人、一日の平均入館者数は二、八五八人という利用状態であり、十二月に入つても四ヶタの入館者を維持している状態であります。

①メディアウインドー一階は児童書案内、二階は成人書案内（新蔵書データをコンピュータに入れれば自動的にディスプレーする）

②利用者開放端末四台（この端末から予約も出来る）

③コミセン図書室とオンライン。

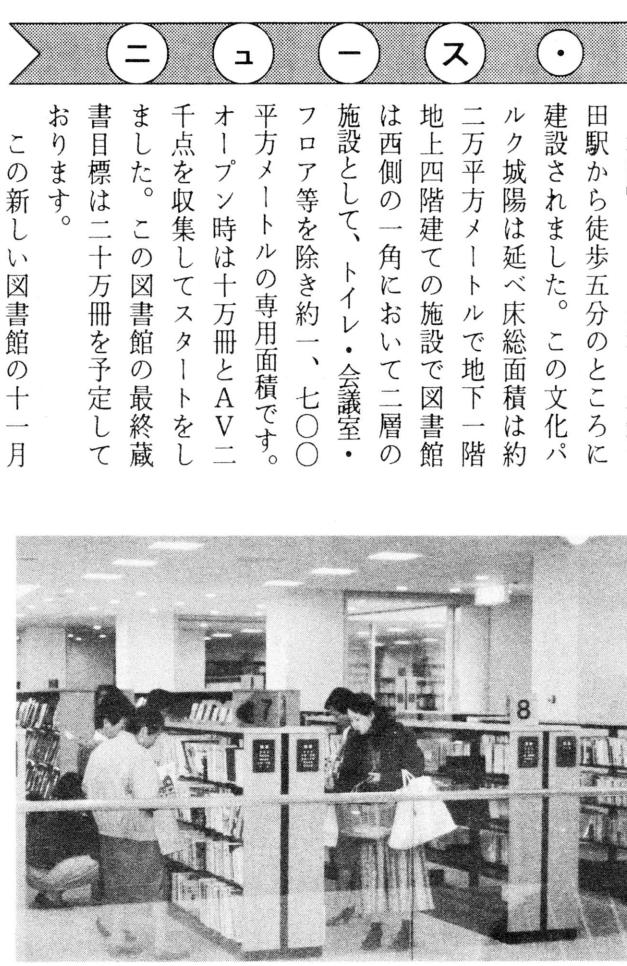
④城陽市の文化・行政案内を画像情報で提供

高い文化施設建設の複合施設として城陽市民八万五千人の期待と感動をこめて、平成七年十一月一日誕生しました。この文化施設は「文化パルク城陽」という名称で近鉄寺田駅から徒歩五分のところに建設されました。この文化パ

ルク城陽は延べ床総面積は約二万平方メートルで地下一階地上四階建ての施設で図書館は西側の一角において二層の施設として、トイレ・会議室・フロア等を除き約一、七〇〇平方メートルの専用面積です。

京都府社会教育委員会議が提言

新聞にも報じられましたように、「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」十二月一日に京都府教育長へ提言がなされました。



この新しい図書館の十一月

る有様です。図書館内部の機器構成を少し紹介しますと次のようになります。

要性がうたわれています。

る有様です。図書館内部の機器構成を少し紹介しますと次のようになります。

①メディアウインドー一階は児童書案内、二階は成人書案内（新蔵書データをコンピュータに入れれば自動的にディスプレーする）

②利用者開放端末四台（この端末から予約も出来る）

③コミセン図書室とオンライン。

④城陽市の文化・行政案内を画像情報で提供

高い文化施設建設の複合施設として城陽市民八万五千人の期待と感動をこめて、平成七年十一月一日誕生しました。この文化施設は「文化パルク城陽」という名称で近鉄寺田駅から徒歩五分のところに建設されました。この文化パ

ルク城陽は延べ床総面積は約二万平方メートルで地下一階地上四階建ての施設で図書館は西側の一角において二層の施設として、トイレ・会議室・フロア等を除き約一、七〇〇平方メートルの専用面積です。

京都府社会教育委員会議が提言

新聞にも報じられましたように、「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」十二月一日に京都府教育長へ提言がなされました。

提言によると、府立図書館はすべての府民が均質なサービスを最も身近に受けられるよう、市町村を支援すること、府立図書館が府内図書館資料・情報ネットワークの中核となること、そして府立図書館と府立総合資料館の資料を一体的に活用して図書館サービスを充実することの必

図書大会

京都府図書館等連絡協議会、日本図書館協会
主催 京都府教育委員会、京都市教育委員会

（平成七年十二月七日開催）
は、会場の立命館大学衣笠
キャンパスに学ぶ学生さん
達のにぎわいと大会参加者
の熱気とためいきに近いも
のが満ち、京都図書館研究
大会とよぶのがふさわしい
ような雰囲気のうちに幕を
とじました。昨年はなかつ
た会後の交流会にもその雰
囲気が続きました。

日本図書館協会からは今
年も酒川玲子事務局長が出
席されました。あいさつ
の中で、資料提供が単館で
は完結できないネットワー
ク時代の本格的到來と行政
改革の進行する厳しい状況
の中でこの会が継続発展し
てることに敬意を表され
ました。

京都府図書館等連絡協議会、日本図書館協会
主催 京都府教育委員会、京都市教育委員会
（平成七年十二月七日開催）
は、会場の立命館大学衣笠
キャンパスに学ぶ学生さん
達のにぎわいと大会参加者
の熱気とためいきに近いも
のが満ち、京都図書館研究
大会とよぶのがふさわしい
ような雰囲気のうちに幕を
とじました。昨年はなかつ
た会後の交流会にもその雰
囲気が続きました。

（仮称）について考へてみませんか？」
（○）報告1「京のOWNネット」の
概要について
日本図書館協会個人選出評
議員四名による「新しい
『京都府図書館協会

（八幡市立男山市民図
書館）が今大会のテー
マ設定について経過と
趣旨説明を行い、三人
の報告者から以下の報
告が行われました。

なお、会期中、日本
図書館協会個人選出評
議員四名による「新し
い『京都府図書館協会

ソの家庭普及が三六〇万人、四人に
一人のO.S.がパソコンを買つたり勉
強したりしているような状況、自館
（亀岡市立図書館）でもアメリカの
姉妹都市の図書館とのインターネッ
トの可否を検討するよ
うな状況を強調して挨
拶をされました。

そして実行委員を代
表して日本図書館協会
評議員尾上日出丸氏

（京都府立図書館）によ
り、会場の立命館大学衣笠
キャンパスに学ぶ学生さん
達のにぎわいと大会参加者
の熱気とためいきに近いも
のが満ち、京都図書館研究
大会とよぶのがふさわしい
ような雰囲気のうちに幕を
とじました。昨年はなかつ
た会後の交流会にもその雰
囲気が続きました。

コンピュータ・ネットワークと図書館サービス

西村一夫

松原市民松原図書館



京都府企画環境部生涯学習室
片山晋
京都府では、今年六月十三日から、
パソコン通信による生涯学習情報提
供システム「京のOWNネット」を

（○）報告2「松原市民図書館にお
けるコンピュータ・ネット
ワーク・システム」

については、今年度中に、団体グル
ープ情報、教材情報、資格情報を提供
できるよう準備中である。府民の方を主体にした「OWNネット」を作つてゆきたいと思っている。

二つのサーバー、事務用端末群、
利用者用端末群を相互に接続してい
るのが、LANのイーサネットであ
り、各分館とはブリッジ（接続装置）
を使用して一体化している。ブリッ
ジ間はISDNを使用している。

なお、「みんなの図書館」平成七
年十二月号にも報告をしているので
参照されたい。

供システム「京のOWNネット」を
稼働させ、府民及び全国に公表して
いる。このシステムは、二十四時間、
誰でも、利用でき、費用も、行政情
報提供システム「府民ネット」を經
由すれば、三分十円の均一料金で利
用できる。情報の内容は、催物情
報、施設情報、人材情

報で月に千二百から千五百件の利用がある。
又、市町村とのネットワーク化を進めていて、
今年度中に三十四の市町村と十四の府立施設
に端末を設置し、平成八年度には全市町村と
結びたい。京都市民の方には、市内の府立施
設に端末を設置して見
てもらう。今後の予定
で、資料提供が単館では完結できないネットワー
ク時代の本格的到來と行政
改革の進行する厳しい状況
の中でこの会が継続発展し
てることに敬意を表され
ました。



都・京・回・4

◎ 報告3 「大学図書館におけるコンピュータネットワークシステム」

立命館大学図書館

間 部 陽 一

一九九〇年四月に、全学の図書館業務を統合的に遂行することができる現システム「RUNNERS」の稼働に成功した。

このシステムの構成は、図書管理、図書・雑誌の目録管理、貸出・返却・所在管理、蔵書点検業務にかかる閲覧管理、O P A C (オンライン閲覧用目録)検索、I L L (国公立図書館間相互貸借)等からなる。さらに、学術雑誌のコンテンツ情報や学術情報センター、O C L C 等の内外のオンライン書誌データリティや C D - R O M 検索も行う。現在、端末一五二台、データは図書六十万冊、雑誌三万冊、雑誌カレントコンテンツ二百万件を擁して

いる。

本年四月から図書館にマルチメディアルームがオーブンした。

新ランナーズを開発中であり、一九九六年四月には立命館大学総合情報システム「RAINBOW」への対応と様々なアプリケーションが用意される。

◇ここまできたか情報化、されど――

長岡市立図書館 斎藤 隆司

私はこの大会に参加するまでコンピュータ・ネットワークについて、便利なものであらうという認識はあつたが、自館や自分にとって縁遠いものという気持ちでいた。しかし立命館大学図書館で一室に数十台のマルチメディア・パソコンを利用者が用が並び、空きがほとんどないような状態で使用されているのを見て、時代はここまで来ているのかと驚き、実行委員が大会の趣旨説明で言われた「コンピュータ・ネットワークは F A X と同じようにある時期を境に急速に普及し、あって当然というようになるだろう。」ということを実感した。松原市民図書館では利用者がパソコン通信で、自宅から図書館があなつていて、約三十人の登録者があり、一日に一・二回の利用があるそ

うである。図書館ではそれ専用に電話回線を二本使っている。プライバシー保護についても万全で、資料検索しかできないファイルと、登録者が貸出し記録等を見ることができないようになっている。自宅から予約できるようにすることも検討しておられるということであった。

コンピュータ・ネットワークは便利ではあるが、忘れてはいけないのが、何のために使うかである。京都府域における公共図書館コンピュータネットワークを考える場合、府立

図書館が現状のままで、「未所蔵」というリスクのほうが多く返ってくるよう気がする。京都府の現状では、府立図書館・府内の図書館等の資料費増と職員増がコンピュータ・ネットワークと合わせしなければならないことである。それがなされなければ軽自動車にトラックのエンジンを積んだようなコンピュータ・ネットワークが出来上がってしまうであろう。

◇第四回京都図書館大会に参加して

舞鶴市立東図書館 嵐根 行雄

去る十二月七日、立命館大学を会場に、第四回京都図書館大会が開催された。「ネットワーク化が住民

の関心の的になつていている。住民の多種多様なニーズに答えるためには、どうしても各種の図書館が手を結んでいく必要がある。」と、日本図書館協会事務局長酒川玲子氏の力強い「挨拶」で始まった今回の図書館大会。開催趣旨説明の後、事例報告（京の O W N ネット、松原市民図書館におけるコンピュータ・ネットワー



「全国公共図書館整理部門研究集会」に参加して

京都市右京図書館

松野義明

「公共図書館における資料の収集・選択を中心に」というテーマで甲南大学教授の前川先生の講演、他府県の事例発表等がありました。

図書館職員となり約半年が過ぎ、仕事に慣れが出始めた時期に、「資料収集」という、これほど重要で基本的なことについて、いかに不勉強であったかを実感させられました。

『図書館職員は資料の選択者として「①本を知っている。(本の持つ重みを知らないければだめ) ②人を知っている。③図書館は何のために、誰のためにあるのかについてきっちりとした考えを持っている。』』という三つの条件を兼ね備えることが大切である。』という言葉が特に印象に残りました。

また、事例発表や交流会等を通して「組織としての資料の選択方法」、「地域図書館の存在意義や役割」、他の図書館との連携」、「地域に密着した図書館づくり」など、まだまだ勉強していかなければいけないことがたくさんあると考えさせられる大変有意義な研究集会となりました。

■ 第2回理事会開く

去る10月18日(水)、第2回理事会が、京都府立図書館会議室で開催されました。

理事会では、研修研究・広報・相互協力の各委員長から、今年度の取組状況が報告され、併せて事務局から、「第4回京都図書館大会」の準備状況について報告。

協議では、『公立図書館振興に関する要望活動』については、図書館が設置されている自治体には、図書館を通じて提出することとし、「分担金の値上げ申請」も、法令外負担金等審議会に引き続き申請することが決定されました。

なお、人魯理事の人事異動に伴い田中正子氏(京北町文化センター所長)が就任されました。第3回理事会は、3月に予定。

■ 分担金改定の予定

分担金の改定について、法令外負担金等審議会に申請していましたが、この程、申請の一部が承認されました。

承認内容は、町村の現行4,000円が5,000円、市の現行7,000円が10,000円です。このことに伴い、平成8年度総会に、分担金改定案を提案させていただく予定です。 〈事務局〉

◎相互協力委員会

十一月十日、府立図書館において、

平成七年度相互協力委員会議を開催しました。議題は①京都府公共図書館等所蔵雑誌新聞総合目録の追録に

者会議を開催し、さらに深める事としました。最後の実態調査については、原案を一部手直しし、実施する事としました。

◎広報委員会

本年度第二回広報委員会を十月十日開催しました。

次回は来る一月十八日に、舞鶴市立東図書館において「会報三十八号について」「会報三十九(平成八年三月十五日)号の編集と分担について」を内容にして行います。

〈お詫びと訂正〉

会報三十七号の新館長紹介記事中、峰山町立図書館長名が誤っていました。誠に失礼しました。左記のとおり訂正を願います。

誤・藤原英子 正・藤村英子

◆実務研修会◆

日時 二月一日(木)午後二時から
場所 城陽市「文化パルク城陽」
内容 「あかちゃん絵本」についての経験交流と研究協議パートII

◎研修研究委員会

委員会では左記のとおり研修会を開催します。挙ってご参加ください。

◆業務研修会◆

日時 一月二十六日(金)十時から
場所 京都市下京区合同庁舎
①講演 「これから日本の図書館のあり方について—欧米の図書館の歴史から考ること」
②研究協議 (午後二時から)
「図書館資料の構成と選択の問題—利用者の要求から廃棄まで」

講師・助言者 河井弘志
(立教大学教授)